

市政刷新

【発行者】
福岡市議会議員 調崇史（自由民主党 福岡市議団）

正論を市政に!
福岡市議会議員(城南区) 調たかし

実行!

生活交通の確保に向け確かな一歩!!

■ オンデマンド交通の手法で試験運行へ

議員活動も早いもので11年目。初当選以来、自身のライフワークとして取り組んでいる生活交通の問題について、去る12月の市議会一般質問で大きな前進がありました。

生活交通の問題はかつては農山漁村地域など過疎化が進むエリアで路線バスなどが休廃止されたあと、どのように代替の交通手段を確保するかという問題として議論されてきました。しかし近年では高齢者の運転免許証の返納が勧奨されるようになり、都心部・山裾などの区別なく、様々な高台地域や、バス・電車等が乗り入れていないエリアで、どのように自家用車に代わる交通手段を確保するかという全市的な課題になっています。

質問では自宅近くのポイントに車両を呼び出し、買い物先や通院先、公共交通の乗り口などへの移動を安価で行うこと

や通院の外出頻度として最も多い「週2~3回」程度の運行で、これまでアイランドシティや西区の橋本駅周辺の地域限定だったサービスよりもエリアを広げていくアイディアを基調としながら、新たな試験的な運行が実現するように引き続き取り組んでいく方針です。

いつまでも住み慣れた地域で暮らしていく福岡市を実現するために頑張りたいと思います。

■ 課題になるのは「持続可能性」

生活交通の確保のために、福岡市では過去に東区・西区などの幾つかの地域でコミュニティバスを巡回させる取り組みが行われましたが、いずれも当初の想定通りの利用がなく、運行する事業者の採算が取れないことが主な理由で打ち切りになってきた経緯があります。

オンデマンド交通を軸として生活交通の確保を進めいくためには、サービスの利便性に加えて事業としての採算性を高めた持続可能な手法を確立する必要があります。これからの少子高齢化の進展、税収減に伴う社会保障費財源の

新型コロナの第6波が到来し緊張が高まる年の初めとなりました。困難は続きますが、必ず乗り越えられると信じます。健康にはくれぐれも留意してお過ごし下さい。



福岡市議会議員 調たかし

新型コロナの第6波が到来し緊張が高まる年の初めとなりました。困難は続きますが、必ず乗り越えられると信じます。健康にはくれぐれも留意してお過ごし下さい。

オンデマンド交通の試験運行イメージ

※会派内における議論の経過を報告するもので、市の事業に関する決定事項ではありません。



試験運行に向けてPTが提案している考え方

- オンデマンド交通のサービスは民間事業者が主体で行い、買い物先や通院先などがスポンサーとなる協賛金と、利用者が支払う運賃を主な収入源とし、市も必要な経費を負担する
- 運賃の支払いには高齢者乗車券が活用できるものとする
- 農山漁村地域をはじめ過疎化が進む地域、都心や周辺部を問わず市内各地の高台の地域、公共交通の乗り入れがない不便な地域など、様々なエリアを組み合わせて、それぞれ週2~3回の運行を行う

調 崇史 プロフィール

- | | |
|-------|----------------------------|
| 1978年 | ○ 4月17日 福岡市生まれ |
| 1991年 | ○ 七隈小学校卒業 |
| 1994年 | ○ 梅林中学校卒業 |
| 1997年 | ○ 修猷館高校卒業 |
| 2002年 | ○ 九州大学法学部卒業
TNCテレビ西日本入社 |
| 2010年 | ○ 同社退社 |
| 2011年 | ○ 福岡市議会議員 初当選 |
| 2022年 | ○ 現在 3期目 |

43歳



WEBサイトで情報発信中!!

調たかしの日々の活動の様子を紹介しています。また、オフィシャルサイトからは市政に対するご意見をお送りいただけます。ぜひ皆さまの声をお聞かせください！

調たかし


www.t-shirabe.net/

調たかし 事務所

ぜひ、お気軽にお立ち寄りください！

〒814-0133

福岡市城南区七隈7-5-27 ドミールハウス1F

※市営地下鉄 七隈駅から徒歩約2分

【TEL】092-834-9984

【FAX】092-834-9983

mail:info@t-shirabe.net



※ 西日本新聞 2021年12月22日朝刊



議会質問1

空き家を地域の集会所として活用できるようになります！

福岡市は人口増加が続いているが、色々な地域で住み手のない「空き家」の増加が問題になっています。こうした中で福岡市は昨年12月に「空き家等対策計画」を策定しました。計画を策定したことにより、国が空き家の有効活用による問題の解決に向けて所有者や自治体とともに一定の経費を負担する「空き家対策総合支援事業」の支援メニューが、今後福岡市でも活用できるようになります。

高齢者や青少年に関する福祉施設など、様々な公益的な活動の拠点として空き家が活用される道が開かれたと受け止めていますが、注目すべきは地域の集会所としての活用も支援メニューに入っている点です。これまで各町内会の活動拠点となる集会所について、持っている町内、持っています

ない町内でバラつきがあり、少なからぬ要望の声を伺ったことがありました。国の空き家対策総合支援事業を活用すれば、空き家を集会所として改修する場合に、所有者(或いは借り手となる町内会等)が3分の1、市が3分の1、国が3分の1を負担するなど、公費助成が受けられる見通しです。土地や建物の取得費用という大きな初期投資が必要なくなることで、検討する町内会等が出てくるものと期待しています。

私は昨年12月の議会質問において、空き家を地域集会所に改修する際に福岡市が公費助成を行うことができるよう、現在の補助金の要項を改定するように求めました。国の支援事業が早期に活用できるよう、まずは福岡市の条件整備を急がなければならぬと考えています。

国の空き家対策総合支援

空き家等対策計画に基づき実施

●空き家の除去

住居環境の整備改善のため、空き家を除去し防災空地を整備



●空き家の活用

地域活性化のため、空き家を地域交流施設に活用



法定の協議会など
民間事業者等と連携して事業を推進

補助率

●空き家の除去の場合

- ・所有者(借主)が実施

国	地方公共団体	所有者(借主)
2/5	2/5	1/5

- ・地方公共団体が実施

国	地方公共団体
2/5	3/5

●空き家の活用の場合

- ・所有者(借主)が実施

国	地方公共団体	所有者(借主)
1/3	1/3	1/3

- ・地方公共団体が実施

国	地方公共団体
1/2	1/2

※写真：国土交通省ホームページより

議会質問2

いつどこに避難する？～豪雨時の対応～

昨年8月に大雨の予報が出た際、福岡市では各校区の公民館など119カ所に避難所が開設されました。避難の対象となったのは土砂災害特別警戒区域や河川の氾濫が予想される地域などで、対象者数は約14万5千人。しかしながら、実際に避難した人の数はピーク時で105人にとどまりました。避難所を維持するために動員された市の職員の延べ人数は1689人でした。避難指示に従って行動した市民が極めて少なかったことが分かります。

一方で、今回の避難対象となった14万5千人の全てが、公民館などの公設の避難所に収容できる訳ではありません。こうしたことを考えた場合には、遠方にある親戚の家やホテルなどを予め避難先として計画しておくよう、特に土砂災害特別警戒区域や浸水想定区域などの市民に対して実効性のある啓発を行う必要があります。



コロナ禍での地域活動～地場経済の浮揚に取り組んでいます～

福岡市で初めての新型コロナウイルス陽性者が出てから2月で丸2年になります。この間、4回の緊急事態宣言の発出と目下の第6波の流行によって地域の経済活動は大きなダメージを受けてきました。

城南区の七隈に置かせて頂いている私の政務活動事務所では、福岡市の様々な助成制度(飲食店のテイクアウト支援・家賃支援・感染症対応シティの設備投資助成など)や国の持続化給付金、県の時短協力金などについて、家族経営など零細事業者の方々の申請手続きをお手伝いしてきました。

また、地元の「花みずき通り商店会」では会長を拝命していますが、県と市の支援を積極的に活用してプレミアム付き商品券による消費拡大に取り組んできました。



せようになっています。しかし、市民の森から油山山頂までの3ルートとは違って、梅林ルートは登山道として整備されておらず危険な所がいっぱいです。

市に改善を求めてみて分かったのですが、梅林ルートはほとんどが民有地のこと。改善には幾つものハードルを越えなければなりません。妙見山は麓から片道1時間程度で登れる絶景スポット。是非とも観光資源や市民の健康づくりに生かしていきたいものです。



福博 そうつく記

油山の登山道

コロナ禍が長期化する中で、土・日・祝日の空いた時間に山登りをする機会を持つようになりました。東油山6丁目から入山して、市民の森の管理事務所付近まで歩き、そこからはA～Cの3つの登山コースのいずれかで山頂を目指します。下りは片江展望台近くを経由して梅林1丁目の梅林緑道に至るルートです。ゆっくり休憩を挟んでものぼりが2時間、下りが1時間半程度です。

梅林ルートの中間あたりに妙見山があり、ベンチなどが置かれた妙見坊からは市内のかなり広い範囲が見渡